

# どぼく散歩4

## 王子

東京都内の土木遺構と人気のエリアを訪ねる「どぼく散歩」。  
第4回は王子駅の周りをぶらり。徳川将軍家が日光東照宮へ参詣するための道「日光御成道」の道中にある町として将軍家とも縁深く、明治時代以降は日本の洋紙、薬品など官民の製造拠点となる一大工業地帯として栄えました。そんな近世から現代にかけての歴史に親しめる必訪エリアをご紹介します。



### ●古レールを再利用したアーチ橋

JRの線路をまたぎ王子駅から飛鳥山公園をつなぐルートになっているのが、「飛鳥山下跨線人道橋」です。美しいアーチを描くこの鉄橋、実はアーチリブや下部構造に古いレールを再利用してつくられています。まさかと思いつめてみれば、本当にレールでできている。ちょっと不思議な土木構造物です。

### ●当地に居を構えた近代日本の偉人

飛鳥山公園の南東側にあるのが「旧渋沢庭園」。江戸末期から大正時代まで活躍した偉人・渋沢栄一の邸宅があった場所です。日本近代化の波の中、渋沢は官僚や実業家として数々のプロジェクトや企業の立ち上げに携わり、建設業界にもその足跡を遺しています。彼の業績は、庭園の向かいにある「渋沢資料館」で知ることができます。



### ■動都内有数の“インフラ鑑賞スポット”？

今回の散歩はJR「王子」駅北口からスタート。駅東側の広場をぐるりと見渡せば、JR、都電荒川線、バスなど様々な交通網がここ王子で一堂に会しているのがうかがえます。そんな王子の町並みを楽しめるのが駅北東にある「北とびあ」の展望ロビー。南北に伸びる鉄道、東西に走る高速道路と河川、そして土木構造物の数々——“インフラ鑑賞スポット”さながらの情景に、思わず旅の目的を忘れてしまいそうです。

### ■名景勝地に宿る王子の歴史

後ろ髪を引かれつつ展望ロビーを後にし、JRの高架下から西側へ。駅西側は江戸時代以来の景勝ゾーンです。この界限は、江戸時代に8代将軍徳川吉宗が飛鳥山に桜を植えさせたことから、ふもとの清流と山の桜が織りなす美しい情景で名を馳せた景勝地です。まずは「音無親水公園」に。ここは石神井川の旧流路（音無川）を利用した公園です。昭和半ばの流路変更で一度は眠りについたこの流路ですが、昭和末期に公園

### ●「飛鳥大坂」に見る土木技術の意義

王子駅北側の高架下から始まり、飛鳥山のたもとを這い上がる大きな坂道を「飛鳥大坂」と言います。近代以前には東京有数の急峻な坂道で、荷車の押し運びを手伝って手間賃を稼ぐ人もいたというほどの難所でした。今では緩やかな勾配に整備され、車、自転車、路面電車、歩行者がのびのびと通行します。土木技術がいかに人びとの暮らしを安全で快適なものにしたか、その意義に想いを馳せる光景でした。



### ●景勝地「音無親水公園」に架かる2つの歴史的橋梁

音無親水公園には2つの橋があります。手前の「舟串橋」は台風で流された従前の木造橋を復元したもので、公園整備の際にこの地に戻ってきました。奥に見えるコンクリートアーチ橋の名は「音無橋」といい、昭和5（1930）年の建造です。「戦時中はこの地域に軍の工場があって、『戦車が通れるように』とコンクリート造にしたという話です」と公園の管理職員さん教えてくれました。

として再整備。近代化の中で汚れゆく川を愛いた人びとの、美しいせせらぎへの想いが込められた公園です。公園に架かる「音無橋」を渡り南下すると本郷通りの起点に到着。この通りはかつての「日光御成道」。徳川将軍家の東照宮参詣路です。少し寄り道して通りを南下すれば、御成道の名残「西ヶ原一里塚」の碑が。王子が将軍家に縁の深い地であったことがうかがい知れます。

### ■「交通」がキーワードだった王子エリア

本郷通りから「飛鳥山公園」に入り、ぶらりと園内

を回ったらモノレールで山のふもとへ。旅の最後に見えるのは「王子大坂」。山の脇を這い上がるこの坂は、近代まで急峻な坂でした。安全な勾配に整備された今の坂を通して、インフラ整備の先達に想いを馳せます。幕府ゆかりの道沿いにある町として、美しい景観と共に発展してきた王子。江戸から現代まで、思えば“交通”にまつわる見どころが多いエリアでした。おみやげは老舗「扇屋」の玉子焼き。宵口の肴に心躍らせながら、さて、帰りは路面電車を使ってみましょうか。